# 古代シルクロードの起点「西安」

## 悠久の歴史を今に伝える永遠の古都

中国駐東京観光代表処

中国駐東京観光代表処は、中国大陸全土の魅力をさまざまな角度で分析し、日本に向けてアピールしている。今回は古代シルクロードの起点、中国歴代13王朝の都として栄えた西安にスポットを当てた。

西安観光のハイライト、兵馬俑坑

秦の始皇帝陵と兵馬俑坑　長安―天山回廊の交易路網

## 見逃せない二つの世界遺産

中国のほぼ中央に位置する陝西省。その省都であり、最大都市の西安（旧名・長安）は、秦、漢、唐など13王朝の都、アテネ、ローマ、カイロとともに世界四大古都の一つとして知られ、遠く西域へとつながるシルクロードの東の起点にもなっている。

ここ西安には二つの世界遺産がある。一つが「秦の始皇帝陵と兵馬俑坑」、もう一つが「シルクロード・長安―天山回廊の交易路網」だ。前者は1987年、後者は2014年に、ともに世界文化遺産に登録された。

兵馬俑坑は1974年、農民が井戸を掘削していたところ、偶然発見したという「20世紀の考古学における最大の発見」。秦の始皇帝が絶大な権力を誇示するため、兵や馬の塑像を焼成し、その陵を守らせたといわれる。

展示する博物館は総面積1万4263平方㍍。出土した武士俑だけでも約6千体。ほかに、陶俑陶馬約8千点、青銅器約4万点が発見されている。

秦の始皇帝陵は内城の周囲が2525・4㍍、外城の周囲が6294㍍というスケールの大きな陵墓だ。大きな土の山で、陵の周辺では兵馬俑坑が発見されているのみで、いまだ発掘されていない陪葬坑が多くあるという。

一方、シルクロードの世界遺産は、西安から天山回廊を経て中央アジア（カザフスタン、キルギス）に至る範囲の史跡33カ所。このうち中国国内は22カ所、陝西省は7カ所、西安は5カ所が登録されている。

西安市内にあるのは大雁塔、小雁塔、唐長安城大明宮遺跡、漢長安城未央宮遺跡、興教寺。

**大雁塔**

大慈恩寺内にある高さ64㍍の7層の塔で、唐の時代の652年の創建。玄奘（げんじょう）三蔵（三蔵法師）がインドから仏教経典や仏像を持ち帰り、翻訳、保管した場所とされる。塔は登ることもでき、塔の上から市街地を一望する。

**小雁塔**

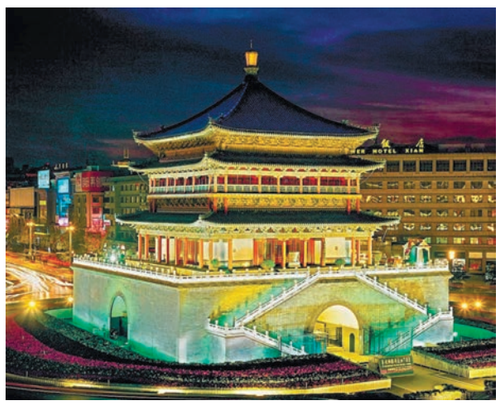
薦福寺内にある高さ46㍍の塔。唐の時代の709年の創建。大雁塔より小さいことからこの名が付く。15層の塔だったが、幾度の地震により塔頂が崩れ、現在は13層となっている。

大雁塔

小雁塔

## 街のシンボル「鐘楼」

### 空海、楊貴妃ゆかりの場所も



ライトアップされた鐘楼

世界遺産に限らず、西安には多くの見どころがある。

**鐘楼**

街の中心の東西、南北の二つの大通りが交わる場所に鎮座する楼閣。明の時代の1384年の創建で、1582年にこの地に移された。大きな鐘が吊るされ、市民に時間を知らせたり、警報を発したりする役目を果たした。

**鼓楼**

鐘楼と向かい合った場所にある楼閣。こちらは大きな太鼓の音で市民に時間を知らせた。明の時代の1380年の創建。

**城壁**

中国の古代城壁のうち、最も完全な形で保存されている。明代初期に唐代の長安城の王城を基礎に築造された。長方形で周囲の長さ13・93㌔、高さ12㍍。城壁上部の幅は12～14㍍。城壁には上ることができる。

**碑林博物館**

漢の時代からの石碑3千点余が残されている。中国で最も多く石碑を保存しているところ。このほか中国古代の文化財など、合わせて1万1千余を収蔵する。

**大清真寺**

西安最大のイスラム教モスク。別名化覚寺。明の時代の1392年の建立。中国風の建築様式で、中国とイスラムの二つの文化が交じり合った印象だ。

城壁。壁に上り散策もできる

**陝西歴史博物館**

展示室の延べ床面積1万1千平方㍍という広大な博物館。陝西省で出土した文化財37万点余を収蔵する。

**回坊風情街**

鼓楼の西側に広がる回族と呼ばれるイスラム教徒の人々の居住区。シシカバブーなどの屋台が並び、にぎわいを見せる。

**大唐芙蓉園**

唐の時代の文化を紹介するテーマパーク。芙蓉園という皇室の庭園だった場所を利用した。

**青竜寺**

隋の時代の582年に建立。元は霊感寺といい、唐の時代の711年に改称された。唐代の仏教密宗を伝播する主な寺院の一つ。遣唐使で来た空海（弘法大師）がここで教義を説き聞かされ、日本に帰国して真言宗を開いた。

**華清池**

西安市郊外30㌔の驪山（りざん）のふもとにある中国で最も古い王室庭園の一つ。「天下第一御泉」とたたえられる温泉が湧いている。温泉は唐の玄宗皇帝と楊貴妃が入浴したという言い伝えがある。

**華山**

西安市街地から東へ120㌔。中国五名山の一つに数えられる景勝地。断崖絶壁のスリル満点の登山道がある。

唐長安城大明宮遺跡

**唐長安城大明宮遺跡**

唐の時代の長安城にあった三大宮殿の一つ。634年、唐の太宗李世民が父李淵のために建てたという夏宮。唐代の皇帝のほとんどがここで暮らした。現在は遺跡公園として整備されている。

**漢長安城未央宮遺跡**

前漢の時代の宮殿跡。12人の皇帝がここを拠点に政治を行ったとされる。城壁の一部など当時の遺構が残っている。

**興教寺**

玄奘三蔵の遺骨を埋葬する寺。唐の時代の669年の建立。玄奘三蔵は664年に病死し、長安郊外の白鹿原に埋葬されたが、後にこの地に移された。遺骨は境内の唐三蔵塔に安置されている。

興教寺・唐三蔵塔

## 近代都市の魅力も

### 西安市副市長が来日、アピール

中国・西安市の観光説明会が1日、東京のホテルメトロポリタンで行われた。西安市の徐明非副市長があいさつし、同市の兵馬俑やシルクロードの関連遺産に代表される歴史の魅力と、近代都市としての魅力の二つをアピールした。

徐副市長は「西安は悠久の歴史を持つ古都。歴代13の王朝が1100年以上、ここに都を置いた。市内に文化遺産は3200余り。鑑真、弘法大師、阿倍仲麻呂と、日本との交流も盛んに行われてきた」と強調。

一方、「西安は北京、上海に次ぐ国際都市の建設を目指している。中国の地図の中心にあり、航空取り扱いは全国7位。460以上の科学研究機関があるハイテク都市だ」と、近代的要素も併せ持つ同市の魅力を述べた。

中国側からは、中国駐東京観光代表処の王偉首席代表も同市の魅力をアピール。

日本からは、日本旅行業協会（JATA）海外旅行推進部の千葉信一副部長、日本政府観光局（JNTO）の山崎道徳理事が日中の交流促進を呼び掛けるあいさつをした。

徐副市長は同日、観光経済新聞社など観光関係メディアの取材にも応じた。

徐副市長は「日本は重要なマーケット。西安とは古くから文化交流が盛んで、市民も日本人の来訪を歓迎している」とした上で、日本の旅行会社に向けて、「西安は伝統だけでなく、モダンなものもある。歴史と近代、両方の魅力を感じられる。日本人に関心が持たれるような旅行商品を日本の旅行会社とともに作りたい」と述べた。

西安市・徐副市長

## 「羊肉泡饃」「肉來饃」――名物料理を味わう

旅の楽しみの一つ、グルメ。西安にもさまざまな名物料理がある。

**羊肉泡饃（ヤンローパオモー）**

西安の有名なイスラム軽食。小麦粉を焼いて作ったモーと呼ばれるパンをちぎり、羊の肉や春雨、干し豆腐、キクラゲなどとともに鍋で煮込む。ナマコや車エビなど海産物を好みで入れる。

**涼皮（リャンピー）**

きしめんのような平らな麺に肉や野菜の具材を入れ、ピリ辛の調味料を混ぜた汁なし麺。陝西省の著名な軽食だが、近年は中国全土にも広がっている。

**肉來饃（ロージャーモー）**

モーと呼ばれるパンに肉をはさんだ中国版ハンバーガー。肉は豚や羊が使われる。

**ビャンビャン麺**

小麦粉で作った平たく長い麺。肉や野菜をトッピングして食す。麺の幅が3㌢、長さ1㍍ほどと見た目にインパクトがある。「ビャン」は画数58画の創作漢字で、こちらもユニーク。

羊肉泡饃

涼皮

肉來饃

ビャンビャン麺

### 西安観光モデルコース

| 日 | 地　名 | 時　間 | 交通機関 | コース内容 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 東京ほか<br>西安 | 午前<br>午後 | 航空機<br>専用バス | 空路、西安へ<br>ホテルへ移動<br>（西安泊） |
| 2 | 西安 | 終日 | 専用バス | 市内観光<br>城壁、鐘楼、鼓楼、大清真寺、回坊風情街、<br>碑林博物館、小雁塔<br>（西安泊） |
| 3 | 西安 | 終日 | 専用バス | 郊外観光<br>華清池、兵馬俑坑、華山<br>（西安泊） |
| 4 | 西安 | 終日 | 専用バス | 市内観光<br>青竜寺、陝西歴史博物館、大雁塔、<br>大唐芙蓉園<br>（西安泊） |
| 5 | 西安<br>東京ほか | 午前<br>午後 | 専用バス<br>航空機 | 空港へ移動<br>空路、日本へ |

**お問い合わせ　中国駐東京観光代表処**

cnta.tokyo@gmail.com

TEL03―3591―8686　FAX03―3591―6886